

消 化 器 学

【単位数：4単位，授業52コマ，予備3コマ(定期試験含まず)】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である

1 科目責任者

伊藤 清顕 教授(肝胆膵内科)

科目担当者

中村 正直 教授(消化管内科)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-3-c, Ⅲ-4-c, Ⅲ-5-c)

- ① コンピテンスの「医学知識と科学的探究心」を修得するために，消化器系疾患の病態，検査，診断，鑑別診断，治療を論理的思考に基づいて説明できる能力を養う。また，これらの学習過程において，自ら学修目標を設定し，継続的に学び，その成果・知識を他者と共有することを通じて，「プロフェッショナリズム」の涵養を図る。
- ② 内科・外科との関連のみならず，基礎医学で学んだ知識を活用し，病態の理解に努める。

(2) 学修目標

- ① 消化器の解剖と機能について説明できる。
- ② 主要な消化器症候を列挙することができ，内容を説明できる。
- ③ 主要な消化器疾患の病態を説明でき，症候と関連付けることができる。
- ④ 腹部領域を中心とする診察法を説明でき，所見を記述できる。
- ⑤ 消化器診療に必要な各種の臨床検査の概要を説明でき，その意義を述べることができる。
- ⑥ 各種消化器画像検査法の概要を説明でき，所見を述べることができる。
- ⑦ 消化器疾患の内科的治療法を列挙し，その適応と限界を説明できる。
- ⑧ 消化器疾患の外科的治療法を列挙し，その概要と適応を説明できる。

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	70%	多肢選択問題を原則とし，一部記述式問題を含む場合がある。
中間テスト	○	20%	消化管内科，消化器外科の各分野において終了時に実施する。記述式問題を原則とし，一部多肢選択問題を含む場合がある。 【再評価について】 中間テストについては追試験と再試験を行わない。また，中間テストを受験しなかった際の救済措置(レポート提出による得点など)は一切行わず，得点は0点とする。
レポート	○	10%	肝胆膵内科のTBLにおけるレポートを評価する。 【再評価について】 レポート(TBL, CBL)が未提出の場合は，欠席とし，得点は0点とする。 やむを得ず欠席した場合は課題のレポートを評価する。なお，やむを得ず欠席した場合を除き，当該講義(TBL, CBL)終了以降に提出されたレポートは受け付けない。
態度	○	—	態度不良の場合は，総合成績から10点を限度に減点をする。

・定期試験を受験するためには，欠席率が3分の1を越えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。不合格者には再試験(定期試験に準ずる)を行う。

(3) 再試験・再評価の方法

定期試験と中間テストの合計が60%未満の場合は、再試験を実施する。

再試験は、定期試験に準ずる方法で実施する(60%以上で合格)。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

定期試験や中間テストで正答率の低かった問題、理解が不十分と思われた問題については、学内メールで案内する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
講義前後に AIDLE-K にアップロードされた資料			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
内科学 第12版	矢崎義男	朝倉書店 2022	消化器疾患を網羅し病態についても詳細に記載されているため。
新臨床内科学 第9版	高久史麿	医学書院	最新の疾患概念と診断・治療をコンパクトにまとめ系統別の総論や症候に関する知識を収録。
内科診断学 第3版	福井次矢, 奈良信雄	医学書院	内科診断学の基本が網羅されている。
イヤート 2025	岡庭 豊 編	メディックメディア	過去の国試で問われた内科外科の知識をすべて記載しており、国試で狙われている知識、その範囲が一目でわかる。
カラー版 消化器病学	浅香正博, 管野健太郎, 千葉 勉	西村書店	消化器病学全般がカラーでわかりやすく網羅されている。
標準外科学 第18版	田邊稔監修 池田徳彦,大木隆生,猪股雅史,篠原尚編	医学書院 2025	最新の疾患概念と診断手術についてコンパクトにまとめられている。
標準小児外科学 第8版	上野 滋 監修 仁尾正記, 奥山宏臣, 田尻達郎 編	医学書院 2022	小児外科についての標準的な教科書。

6 準備学習(予習・復習)

- ① 授業に臨むに当たり、参考図書の中より選んで、講義タイトルについての簡単な知識を得ておくこと(1コマあたり約15分)。
- ② 上記参考図書の中で、興味を抱いた項目については、参考図書の記載内容を読んでおく(1コマあたり約0.5時間)。
- ③ 講義前後にAIDLE-Kにアップロードされた資料や、講義内での小テストについて復習し、以降の講義に臨むこと(1コマあたり約0.5時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、中間テスト・小テストの他、CBLやTBLなどによる小グループ討論や講師との質疑応答などのアクティブ・ラーニングを導入する。

(2) 講義の内容

1コマ目に総論として消化器学に関するキーワードを解説し、2コマ目以降は、講義タイトルに沿ったそれぞれの症候、病態、治療などの概略理解を進めていく。それぞれの分野の講義の最後には中間テストにより知識の確認を行う。また、適時、TBL・CBLによるアクティブ・ラーニングを実施する。